

## 美原記念病院ブレインバンクからの年次報告(2018年度)

田野 光敏<sup>1)</sup> 井上 拓也<sup>1)</sup> 布施 葵<sup>1)</sup> 青柳 真一<sup>1)</sup> 諏訪部 桂<sup>1)</sup>  
高橋 陽子<sup>1)</sup> 相澤 勝健<sup>1)</sup> 赤津 裕康<sup>3)4)</sup> 村山 繁雄<sup>5)</sup> 美原 盤<sup>1)</sup>  
美原 恵里<sup>2)</sup> 美原 樹<sup>1)</sup> 高尾 昌樹<sup>1)6)</sup>

- 1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院
- 2) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース
- 3) 医療法人さわらび会 福祉村ブレインバンク
- 4) 公立大学法人名古屋市立大学 大学院医学研究科
- 5) 東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク
- 6) 埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中内科・神経内科

[目的]日本神経科学ブレインバンクネットワークを構成する美原記念病院ブレインバンクにおける2018年度末までの現状を報告する。

[方法]当施設は2007年からブレインバンクを整備し、日本神経科学ブレインバンクネットワーク1施設として、剖検、その後組織診断できる体制を確立し、症例を蓄積してきた。死亡後は必要に応じて頭部MRIや全身のCTも実施している。右脳と脊髄の一部、必要に応じて一般組織を-80℃で保管し、分子生物学的解析、研究のため保存している。免疫組織学的染色は自動免疫染色装置で施行し、他施設からの剖検依頼や標本作製、診断依頼も受け入れる体制とした。

[結果]現在、253例(2018年12月末)の凍結試料を有している。最も多い疾患はプリオン病で凍結試料が54例あり、臨床診断、入院受け入れ、剖検、組織診断まで対応をしており依頼剖検も多い。次に多いのは筋萎縮性側索硬化症の37例。続いて脳梗塞27例、アルツハイマー型認知症21例、脳出血19例、レビー小体型認知症15例、脊髄小脳変性症10例、多系統萎縮9例、進行性核上麻痺7例、パーキンソン病6例、その他の神経変性疾患4例、110歳以上の超百寿者8例、その他の症例が36例であった。

剖検依頼に関しては、プリオン病剖検が困難な施設、臨床的にプリオン病も念頭におかれ剖検ができないケースや、剖検施設がない療養型病院や老人ホームにおいても、事前同意されている場合は各施設と連絡をとり、当院で患者搬送を行い剖検している。本年度は、プリオン病に関して5件と慶應義塾大学百寿総合研究センターとの共同研究で県外の110歳以上の症例を岡山済生会総合病院、関門医療センターの協力により2

件増やすことができた。標本作製・診断依頼は 17 件であった。

[結語]脳血管疾患症例および正常脳の剖検を承諾していただけない点が課題であり、主治医にブレインバンクについて説明を行い、遺族から剖検の承諾をしていただけるように働きかけたい。